

秋の保育



山下 俊 郎

秋の保育！

秋というのは四季の一つであり、一年を通じて動いている時の流れの一コマである。秋の保育ということは、必然的にこのよくな時の流れの一コマにおける保育ということで制約を受ける。言ってみれば季節の制約というものであろう。

* * *

季節の制約の第一はまず自然とのかかわり合いにおいて生じて来る。

秋という季節における自然的な条件のいろいろの変化は、夏からやがて冬に移る中間の変化とだけには止まらない誠に大きな意味を持ち、その中に独得の美しさを持っている。

秋というときすみ切った青い秋空、美しいいろいろの草花、野に出るととびはねているいろいろの虫、美しい声でない虫たち

ち、青い空にひびきわたるもずやひよりのすみ切った声、気持ちよくとんでいる赤とんぼ、栗や柿などの果実といったいろいろのものがわたくしたちの頭の中に浮かんでくる。

しかし、いまわたくしの頭の中に浮かんできたこれらのものを考えてみると、わたくしたちの小さかった頃には、これらのものをふんだんに見、聞き、味わうことができたのであるが、現代の都会生活をしている幼児たち——幼稚園や保育所に通っている幼児たちはみんな都会の子である——が果たしてこれらのものにふれることができるかというところに大きな問題がある。大部分の幼児はあまりふれることができないのである。

何も秋に限ったことではないが、都会の幼児を見ると、この子たちを自然に返せという叫びをあげずにいられない。土にふれることさえもできない、いたるところ舗装道路である。虫を見るこ

ともできない。東京では、テレビや新聞に報道されたようにかぶと虫をデパートに行つて買うということが、今年の夏にはずいぶん行なわれたのである。地方の都市に行くときまだいいかも知れないが、それでも方々へ行つてみると、農業の普及のせいで赤とんぼがいなくなつたという話を聞く。

秋は、このような自然にふんだんにふれさせたい。さきいろいろと書きならべてみたが、これではとてもつくせないくらいいろいろの美しいもの、楽しいものが満ちているのが秋なのである。できる限りこれらのものにふれさせたいものである。そして、このことを考えると今さらながら、園外保育、遠足、見学といった幼児の経験をひろげさせる保育の営みの重要さが浮かびあがってくる。計画的に、幼児の成長の上に大きなのりをもたらす営みとして、これらのことが考えられ組織されるべきであろう。

* * *

自然とのかかわりにおいて考えられる大切なことに、みのりの秋ということがある。いろいろの作物のみのり、ここへ来るまでの人間の営みに対して、これをねぎらい感謝するという、いわゆる勤労感謝ということが、ここから浮かびあがってくる。単に米の収穫だけでなく、芋、その他の野菜類でも、また果物の類でも、秋になると、みのりの秋の収穫は人に祝福をもたらしている。

これらの祝福をもたらしている収穫の裏には、積み重ねられた人間の勤労の大切さが認められなければならない。これが勤労感謝への動きである。わたくしたちは、この勤労感謝ということ、単にみのりの秋ということにつながるものとしてだけでなく、すべての生産にひろげて考えらるべきものであろうと思う。秋という自然の変化の一こまの中にはっきりと認められる勤労感謝ではあるが、それがあらゆる生産へとひろげて考えられるとこれに大切な意味が出てくるであろう。

勤労感謝とつながるものとして祭りがある。現代では、いわゆる祭りが、それほど重きを置かれていないようでもあるが、それぞれの地域社会における祖先から伝わってきた祭りには、その中に流れている暖かく豊かな情緒がある。大きい都会においては秋祭りが直接には勤労感謝と結びついていないようでもあるが、祭りの情緒はやはり暖かく楽しいものがある。秋の祭りと幼児たちとの間にも心暖まる豊かな結びつきがあることが望ましいのではないだろうか。

* * *

さわやかな秋という言葉がある。これも自然的条件の一つであろうか、気温も暑からず寒からず、気持ちのいい温度であり、空気の肌へのあたりが何とも言えない快さである。この快さは、おのずからじっとしてられない活動をひき出して来る。気持ちの

いい大気の中で、思い切りとびまわり、はねまわりたい、この気持ちの現われが運動となって現われてくるものである。

秋は運動会の季節だといわれる。おのずからほとぼり出る運動を、みんなで楽しむのが運動会だといえようか。幼児たちにとって運動会は楽しいものである。存分に楽しませるようにやりたい。ただ、そこで考えるべきことは、子どもが楽しむということに主体がある運動会でありたい。あまりにこりすぎて見せ物の運動会になって、子どもたちの方がつかれるような、またつまらない思いをするようなものであってはならないということである。

運動会に象徴される運動は、大気の中で、思い切り日光を十分に浴びて、健康を貯えて、やがて来る冬への備えをするという意味もある。北の国の方では、この日光を浴びるということが、来るべき長い冬に対して誠に大きい意味を持つものと思う。南の国でも同じではあるが、日光をふんだんに浴びるということは、何においても重要に考えられなければならないことである。

運動会はまた、運動能力を発達させることによって、幼児たちのすべての生活面において多くのプラスをもたらす上に大きい意味を持っている。生活上のいろいろの、いわゆる技術の面において、自立的生活の基礎の一つは運動能力の発達にある。絵画製作や音楽リズムなどにも、運動能力の発達を前提として、これらの

活動への参加ができる。また運動能力の発達によって、幼児たちは仲間への参加が出来る、それで社会性の発達がもたらされる。このような意味を持っている運動能力を発達させることには季節の差異はないかも知れないが、秋という運動に好適な季節には、この好適な諸条件を利用することによって、運動能力をのばすようにくふうすることがあっていいであろう。具体的に言うくと、体力テストを行なって、一人一人の幼児の運動能力を測定し、その結果に応じて運動訓練をすることが望ましい。

ことに今日においては、都市に生活する幼児たちは、住宅事情の上からは狭い住宅に押し込められている上に、交通事情の激化によって、戸外運動の時間をほとんど与えられていない。幼稚園や保育所においてこそ、そしてこの運動の季節である秋においてこそ、その運動能力を組織的にのばすくふうがなされるべきであろう。とくに、幼児期においては、全身運動の発達に発達の中心が置かれている時期であり、その発達を前提として細かい手先の巧みさといった面のびるものである点に注意したい。幼児期にこのような意味を持つ全身運動を十分に発達させるようにすることが、秋というこの季節に期待すべきことであると考えられるのである。

* * *

来るべき冬に備えるという意味において、日光浴や運動といっ

た面の積極的促進を、秋という積極的活動を行ないやすい季節の課題としていまままで考えてきたのであるが、健康に関連しては、秋に課せられている課題がまだ残っている。

これらは、一年中の季節の変化に伴う必然的配慮であるべきであるが、たとえば冬になってかかりやすいインフルエンザの予防接種を秋のうちにして置くとか、寒くなりがけに厚着の習慣をつけないように秋のうちから親の注意を喚起しておくといったようなことは当然のことであるが、秋の保育において忘れられてならないことであろう。いわば冬に対する備えということが、これらのことに限らず秋の重要な課題であることは、今さらいうまでもないことなのである。

* * *

いまままで少しずつ述べてきたことは、幼児に対してわたくしたちが直接にいろいろと保育の上で行なうことについてであったが、最後に親の問題について述べておきたい。

幼児の保育において、保育の効果を十分にあげるためにいろいろのことが必要であるが、その最も重要なことのひとつとして親の問題がある。両親が幼稚園や保育所の保育に対して十分な理解を持ち、その保育の内容について積極的な協力をすること、これは、保育の効果をあげるために、絶対に欠くことのできない条件である。わたくしたちが、保育において、幼児に対する保育活動

とならんで、両親教育に重きを置くのはこの故である。いうまでもなく幼児の生活時間の大部分は家庭にある。この家庭における生活の在り方が、保育施設における生活と全然無縁のものであるとすれば、保育の効果は全く期待できないものとなるのである。園における保育に全面的に親が協力することによって、保育の効果が期待できるのである。

ところで、このような両親の協力体制というものは、日常の季節の中で、個別的に、あるいは母の会、父の会といった形でこれを作りあげることではできるのであるが、秋はこのような体制を作るのに最も好適な季節であることに注意したい。すなわち、さきにふれたように、園外保育、遠足、見学、運動会といった日常と変わったいろいろの営みがなされるのである。これらの機会に、これらの営みを、円滑に、効果的に進めていくためには、何よりも両親の協力が要請される。そこでこれらの協力体制を、これらの営みの場において育成することができるのである。この意味において、秋はまた両親の保育に対する協力体制の育ち、みのるときであるといえよう。

* * *

秋の保育ということで、思いつくことを気ままに述べた。諸兄姉のご参考になればありがたいと思う。